

平成22年度第2回技術研究開発評価委員会〈議事要旨〉

1. 日 時：平成22年3月1日（火）
2. 場 所：中央合同庁舎2号館第2共用会議室A
3. 出席者（五十音順、敬称略）
：嘉門雅史、神田順、見城美枝子、清水英範、菅原進一、土屋幸三郎、松村秀一
4. 議 事：（1）総合技術開発プロジェクト課題について
（2）総合技術開発プロジェクト課題の事後評価について
 - ①建築設備等の安全性能確保のための制御システム等の設計・維持保全技術の開発
 - ②高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発
5. 配布資料
 - 資料1：[総合技術開発プロジェクト課題について](#)
 - 資料2：[「建築設備等の安全性能確保のための制御システム等の設計・維持保全技術の開発」発表資料](#)
 - 資料3：[「高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発」発表資料](#)

6. 議事要旨

平成21年度に終了した2課題について事後評価を実施するため、外部有識者会議を開催した。委員からの主な意見は以下のとおり。

①「建築設備等の安全性能確保のための制御システム等の設計・維持保全技術の開発」について

・建築設備等の制御システムが高度化、複雑化しブラックボックス化している点に対し、JIS標準仕様書（TS）の新規策定等によりオープン化に寄与したこと、また、エレベーターの戸開走行防止や制動装置の二重化等について、必要となる設計技術仕様・安全性能評価法を開発し、迅速に建築基準法施行令等に反映させたことは評価できる。

ただし、既設エレベーターへ成果を展開していくことや、遊戯施設等に関する安全技術目標を技術基準の検討に活用していくこと等、残された課題もあるので、それらを明示することで今後の研究開発につなげて欲しい。

②「高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発」について

・多角的に実用性を考慮した成果を得るとともに今後の課題抽出も行っており、良好な成果を得ていると評価できる。成果の活用にあたっては、盛土の脆弱性を地形のみで評価できるという誤解を与えないよう留意するとともに、画像処理技術以外の手法とあわせて、減災対策への適用を進めて欲しい。

以上